

# 多聞東ふれあいのまちづくり協議会 地域おたすけガイド

## 災害時初動対応マニュアル

### 地域おたすけガイドの作成にあたって

- ◎地域おたすけガイドは、地域の皆さんが災害時に活動する際に、活用するものです。
- ◎災害時は周囲の状況をよく確認し、自らの安全を確保し、無理をせず、自分たちのできる範囲で活動を行うことが大前提です。
- ◎防コミで訓練を通して繰り返し検証して、多聞東地域に適したガイドにするために、どんどん見直していきましょう。
- ◎毎年一回は総会等で確認する機会を設けましょう。

令和元年 1 2 月作成

多聞東ふれあいのまちづくり協議会

# 目次

多聞東地域の主要施設・設備等	1
多聞東地域福祉センター防災資機材庫収納品リスト	2
多聞東ふれあいのまちづくり協議会役員名簿	4
防災活動拠点の体制案	5
災害対応活動のイメージ	6
各家庭での災害対応	7
非常時を見越した食料や物資の準備	8
地域で準備しておくべきこと	9
風水害発生時における災害対応	10
地震発生時における災害対応	11
避難世帯リスト・避難者調査票	13
活動の事前指示書	15
* 情報収集・伝達	15
* 安否確認	16
* 自力での避難が困難な人の避難支援	17
* 救出・救護活動	18
* 消火活動	19
* 災害時給水拠点設置・運営	20

## 災害発生時や緊急時の連絡先

垂水区役所	☎708-5151	多聞東地域福祉センター	☎784-8210
垂水消防署	☎786-0119	多聞東小学校（避難所）	☎783-5868
垂水警察署	☎781-0110	多聞東中学校（避難所）	☎783-5888
垂水建設事務所	☎707-0234	舞子高等学校（避難所）	☎783-5151
NTT	☎113	多聞東学童保育コーナー	☎783-6261
水道局	☎784-0550	学が丘保育園	☎781-0303
（下水）	☎784-0550	学が丘幼稚園	☎783-8080
大阪ガス	☎0120-19424		
関西電力	☎0800-777-3081		

## ■多聞東地域の主要施設・設備等

防コミ運営本部 設置場所	多聞東小学校（会議室） ☎078-783-5868		
	【防コミ運営本部設置基準】		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 震度5以上の地震が発生した場合</li> <li>・ 風水害による大規模な被害が発生すると予想される場合</li> <li>・ その他、委員長と役員が協議し、設置が必要であると判断した場合</li> </ul>		
地域福祉センター 鍵保管者			
近隣の 指定避難所	多聞東小学校	☎078-783-5868	
	多聞東中学校	☎078-783-5888	
	舞子高等学校	☎078-783-5151	
福祉避難所	多聞東地域福祉センター	☎078-784-8210	
ブロック拠点			
災害時給水拠点	西垂水第2高層配水池	※P.20を参照	
防災資機材庫 設置場所	多聞東地域福祉センター		
防災行政無線 設置場所	多聞東地域福祉センター		
要援護者支援名簿 保管場所			

### 多聞東地域福祉センターは「福祉避難所」に指定されています

神戸市では、避難所での生活において、何らかの特別な配慮を要する高齢者、障害者、妊産婦、乳幼児、病弱者等の要配慮者のうち、介護保健施設や医療機関等に入所・入院するに至らない程度の方を受け入れる施設として、市内の地域福祉センター等を「福祉避難所」に指定しています。

福祉避難所の開設は、対象者の人数や施設の状況、対応可能な人員や物資の確保の状況等を踏まえて、市が判断します。災害時に常に開設される訳ではないため、要援護者の方を含め、まずは一般避難所へ避難することになります。

# ■多聞東地域福祉センター 防災資機材庫収納品リスト

鍵保管場所：多聞東地域福祉センター

確認日：平成30年9月

倉庫	品名	数量
<p>防災器具収納庫①（左側）</p>  	ジャッキ (2t)	1台
	ロープ 3m	6本
	トラロープ 10-15m	2本
	トラロープ 20m	1本
	トラロープ 30-40m	1本
	担架用毛布	1枚
	発電機 AC100V 600W	1台
	燃料携行缶 10L	1缶
	コードリール	1個
	台車	1台
	ブルーシート	9枚
	シート	3枚
	訓練用水消火器	5本
	粉末消火器	1本
	期限切れ消火器	2本
	非常用バケツ	73個
	テント (多聞東ふれまち)	1張
	マイクコード (リール)	1個
	つるはし	1本
	斧	1本
手鉤 (長)	1本	
大ハンマー	2本	
金ばさみ	11本	
<p>防災器具収納庫②（右側）</p> 	テント用ポール	2組
	担架 組立式	2台
	副木	18本
	リアカー	1台
	タープ	2張
	立て看板 (夏まつり、文化祭用)	4枚
	コンパネ 中サイズ	5枚
	チェーンソー	

倉庫	品名	数量	
北側倉庫① (大型) 夏祭り用具収納	レフランプ 270W	4台	
	分電盤	3台	
	紅白幕	2枚	
	アンプ・ケーブル・マイク	1式	
	提灯	74個	
	提灯用白熱ランプ	1式	
	コーンバー	6本	
	台車 大	1台	
	台車 小	1台	
	ヘルメット	5個	
	飲料用ビニル袋	多数	
	クーラーボックス 56L	1台	
	ポリペール 大型	2個	
	折りたたみゴミ箱 大	3個	
	パール (カナテコ) 大	3本	
	ガスコンロ	3台	
	寸胴鍋 (アルマイト) 45cm	1個	
北川倉庫② (中央) 園芸用品収納	カラーコーン	9本	
	スコップ (剣スコ)	4丁	
	ジョーロ	1個	
	フルイ	1個	
	蓑 大	2個	
	移植ごて	6個	
	カマ	5本	
	のこぎり 折りたたみ	1本	
	雑草抜き	8本	
	クマデ	4本	
	殺虫剤	2缶	
	草刈り機	1台	
	ブルーシート	1枚	
北川倉庫③ (小型)	防風ネット	2枚	
	ブルーシート	1枚	
	枝切りばさみ	2本	
	金ばさみ	15本	



# ■災害対応活動のイメージ

## 多聞東地域の各地区

### 各家庭・ご近所

#### 台風や大雨が接近した場合

- \* 基本は自宅待機で情報収集
- \* ベランダの整理や窓ガラスの飛散防止等、暴風対策を行う



#### 地震が発生した場合

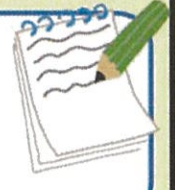
- \* 自分と家族の身の安全の確保
- \* 近所の人への安否確認・避難の呼びかけ（可能な範囲内で）



### 各自治会・集合住宅・管理組合

#### 情報収集・伝達

- \* 被害状況や安否確認情報の収集・整理
- \* 防コミ運営本部への情報伝達



#### 安否確認・避難支援

- \* 安否不明者の確認
- \* 自力での避難が困難な人の避難支援



#### 救出・救護・初期消火

- \* 被災者の救出
- \* 負傷者への応急手当
- \* 初期消火



活動を通じて得た情報を集約  
情報を本部へ伝達

避難

地区の被害状況  
安否確認の情報  
を持ち寄る

### 指定避難所

#### 避難所運営

- \* 避難者名簿の作成・整理
- \* 避難者からの被害状況や安否確認情報の収集・整理
- \* 災害対応活動の人員の募集
- \* 支援物資の配布（自宅待機者含む）



情報を本部へ集約

避難してきた人に  
災害対応活動への  
協力を要請する

必要な場所へ  
人員を派遣

集合

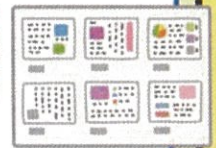
役員は本部へ  
駆けつける

### 防コミ運営本部

- \* ふれまち委員長を中心に、駆けつけたメンバーで立ち上げ

#### 災害対応活動統括

- \* 各自治会・集合住宅・管理組合や指定避難所からの情報の集約・整理
- \* 各地区の課題に対応するための人員の調整・派遣
- \* 区役所・消防署・警察署等への情報伝達



## 多聞東小学校

指定避難所  
多聞東中学校

避難所運営

指定避難所  
舞子高等学校

避難所運営


情報を本部へ集約

地域で集約した情報を  
行政へ伝達・支援要請

### 行政機関

区役所・消防署・警察署等

# ■各家庭での災害対応

各家庭で日頃から災害への備えをしておく	確認欄
各家庭で食料や物資を備える。最低3日分、できれば7日分準備しておく。	
家具の転倒による怪我や閉じ込めを防ぐため、金具や突っ張り棒、ベルト等を使って固定しておく。	
土砂災害警戒区域やまちの危険箇所、避難所までの経路等、普段から住んでいる地域の状況を把握しておく。	
家族との連絡方法や避難場所等を普段から話し合っておく。	
緊急時に気象情報や避難情報をいち早く発信する「ひょうご防災ネット」( <a href="http://bosai.net/kobe/">http://bosai.net/kobe/</a> )等の情報サービスに登録しておく。	

## 台風や大雨が接近した場合の災害対応のポイント

<p><b>① 基本は自宅待機</b>  <b>→避難する場合は早期を心掛ける</b>                  基本的には屋内の安全な場所で待機する。孤立や停電等が心配な場合は、テレビやラジオ、携帯電話等で正しい情報を得た上で避難するかどうかを自主的に判断し、避難する場合は早期を心がける。避難所（多聞東小学校、多聞東中学校、舞子高校）の開設状況等を知りたい場合は、区役所（078-708-5151）に問い合わせる。</p> 	<p><b>② 強風への対策</b>                  強風による落下物や飛散物を出さないよう、庭やベランダの不要なものを撤去したり、物干竿を固定しておく。窓ガラス等の破損やそれによる怪我をしないように、雨戸やカーテンの閉鎖を徹底する。</p> 
--	---

## 地震が発生した場合の災害対応のポイント

<p><b>① まず身の安全を守る</b></p>  <p>しせいを低く 頭を守って 動かない</p> <p>地震の揺れを感じたら、まず姿勢を低くし、丈夫なテーブルの下に隠れたり座布団等を使って頭を守り、ある程度揺れがおさまるまで、じっと動かない。</p>	<p><b>② 家族の安全を確保する</b></p> <p>家族の安否を確認し、家具が倒れてこないような、家の中の安全な場所に避難する。</p> 	<p><b>③ 避難経路を確保する</b></p> <p>建物がゆがんでドアがあかなくなれば危険。ドアや窓を開けておく。</p> 	
<p><b>④ 身支度を整える</b></p>  <p>靴を履き、あらかじめ用意しておいた防災グッズや工具等を確保する。</p>	<p><b>⑤ 正確な情報を収集する</b></p> <p>正しい情報を聞くことが大切</p>  <p>テレビ、ラジオ、スマートホンなどを使って、正しい情報を得る。</p>	<p><b>⑥ 火・電気を始末する</b></p> <p>CHECK! CHECK!</p>  <p>火器の火を止め、ガスの元栓を締める。電気のブレーカーを落とす。</p>	<p><b>⑦ 安否確認や避難の呼掛け</b></p>  <p>可能な範囲で近隣への安否確認や避難の呼掛けを行う。</p>



## ■非常時を見越した食料や物資の準備

東日本大震災では、満身に食料を調達できたのが災害発生から3日目だったそうです。最低3日、できれば7日分の食料や物資を備えておきましょう。

### 安心ストック

ライフラインが途絶えても、何日間かは自給自足してしのぐための物品を備蓄しておきましょう。

- 水** 調理のことも考えて1人1日3リットルを目安に
- 主食** ご飯の場合は、レトルト、多めに炊いたご飯を冷凍しておくなど
- 缶詰** 長期保存に適しています。缶切りが必要なタイプもあるので注意
- インスタント食品**
- フリーズドライ食品**
- 漬物** 梅干しなど
- 乾物** 不足しがちなビタミン、食物繊維の摂取に役立ちます
- 菓子類** チョコレート、キャンデーなど
- 調味料**



- キッチンペーパー**
- ポリ袋 (大、小)**
- ティッシュペーパー**
- トイレットペーパー** 南海トラフ地震では不足すると言われています
- 簡易トイレなど** 災害用トイレなど断水状態でも使用できるように
- 家庭用救急セット** 毛抜き、ガーゼ、包帯など
- 持病薬** 無くなる前に診察を受け、数日分をストック合わせて処方箋のコピーも
- 生理用品**
- 充電器、予備の乾電池**



### いつもケータイ

災害はいつ起きるかわかりません。いつも使うバッグやポケットに入れて身につける、あるいは枕元に置いておきましょう。

- 家、車の鍵**
- 財布** 小銭も入れておく
- 身分証明書**
- 健康保険証**
- 携帯電話** できれば充電器も
- 筆記用具** できれば油性ペンも



- ハンカチ、手ぬぐい**
- マスク** ふんじんを防ぎましょう
- 懐中電灯** ペンライト、携帯電話でも代用可能
- 携帯ラジオ** 手回し・ソーラー式なども便利
- スリッパ** 食器棚等が倒れ、ガラスが散乱した場合は、足を守ることができます
- 緊急ホイッスル** 居場所を知らせる用です



### 非常持ち出し品

家の倒壊や火災等によって避難が必要となった場合、さっと持ち出して逃げられるようリュックサックに入れておきます。

- 飲料水** 1人最低 500 ミリリットル
- 加熱がいらぬ食料**
- ラップ** 清潔なものであれば、止血、食器覆い用
- サバイバルシート** 保温性の高いアルミシート
- 着替え** 肌着など
- タオル** 洗って乾かしたもの



- 軍手・ゴム手袋**
- 雨具**
- マッチ、ライター、ろうそく**
- 生理用品** 清潔なものであれば緊急時の止血用としても
- 歯ブラシ** 誤嚥性肺炎を防ぎます
- 預貯金通帳・印鑑**



※さらに詳しいチェックリストについては、人と防災未来センター発行の小冊子を参照「減災グッズを備えよう！」

→[http://www.dri.ne.jp/wordpress/wp-content/uploads/bousai\\_goods.pdf](http://www.dri.ne.jp/wordpress/wp-content/uploads/bousai_goods.pdf)



## ■地域で準備しておくべきこと

ふれあいのまちづくり協議会	確認欄
非常時に多聞東小学校に駆けつけ、防コミ運営本部を立ち上げるためのメンバーを決めておく。 ※P.5を参照	
非常時に連絡が取り合えるよう、ふれあいのまちづくり協議会や各自治会・集合住宅・管理組合の名簿・連絡網等を整理する。 ※P.4を参照	
LINEをはじめとするインターネットサービスへ登録するなど、電話以外にも非常時に利用できそうな連絡手段を複数準備しておく。	
各指定避難所の開設（門や体育館の開放手順等）や運営について、施設関係者と協議する。	
各自治会・集合住宅・管理組合等で、集会所や掲示板の前など、災害発生時に集まる場所を決めておく。	
防災資機材庫の鍵の所有者や収容品を確認・点検する。 ※P.2～3を参照	
防災訓練等を通じて、防災資機材庫の収容物の補充や追加を行う。	
災害時給水拠点の鍵の所有者等を確認しておく。	
訓練等を通じて、平素から災害時給水拠点における仮設給水栓の設置手順を確認しておく。	
日頃から各家庭、及び各自治会・集合住宅・管理組合としても災害への備えをしておくよう意識啓発を行う。	
民生委員等と協力し、各自治会・集合住宅・管理組合等で避難支援が必要な人の対応について協議しておく。	

# ■風水害発生時における災害対応

## 【災害発生前】

ふれまち役員間での連絡 ⇒ 災害対応方針の決定		確認欄
大規模な風水害が発生すると予想される場合、ふれまち役員同士で連絡をとりあい、災害対応の方針について確認を行う。		
指定避難所（派遣役員）と連絡を取り合い、避難所の開設状況や避難した人の情報等を収集・整理する。		
住民への呼びかけ		確認欄
各自治会・集合住宅・管理組合等を通じ、各家庭で台風や大雨が接近した場合の災害対応のポイントに従って行動するよう呼びかける。 ※P.7を参照		

## 神戸市が発表する避難情報について

警戒レベル	避難情報	求められる行動
<b>警戒レベル3</b>	<p><b>避難準備・高齢者等避難開始</b></p> <p>大雨や暴風が続くと見込まれ、土砂災害や洪水が発生する可能性が高まっている状況。</p>	<p>お年寄りの方、体の不自由な方、小さな子供がいらっしゃる方など、避難に時間のかかる方と、その避難を支援する方は避難を開始してください。それ以外の方は、いつでも避難ができるように備えてください。</p>
<b>警戒レベル4</b>	<p><b>避難勧告</b></p> <p>土砂災害や洪水などが発生する恐れがあり、命が危険にさらされる可能性が高まっており、避難が必要。</p> <p><b>避難指示（緊急）</b></p> <p>災害の前兆現象が発生、切迫した状況から命が危険にさらされる可能性が非常に高まっている状況。緊急に避難が必要。</p>	<p>速やかに避難を開始してください。外が危険な場合は、自宅の2階以上の部屋など（土砂災害の場合は山と反対側）に避難してください。</p> <p>緊急に避難してください。外が危険な場合は、自宅の2階以上の部屋など（土砂災害の場合は山と反対側）に避難してください。</p>
<b>警戒レベル5</b>	<p><b>災害発生情報</b></p> <p>既に災害が発生している状況。</p>	<p>ただちに命を守る最善の行動をとってください。</p>

※警戒レベル1及び2は気象庁が発表

## 【災害発生後】

※安否確認、自力での避難が困難な人の避難支援、救出活動等具体的な災害対応活動については、次ページ以降の「地震発生時における災害対応」参照

## ■地震発生時における災害対応

### 【災害発生直後】

防コミ運営本部の立ち上げ		確認欄
ふれまち役員で予め決められたメンバーは、多聞東小学校に集まり、防コミ運営本部を開設する。 ※P.5を参照		
地域の地図や名簿、メンバーで情報を共有するための機材（ホワイトボードや模造紙等）を準備する。		
ふれまち役員や各自治会・集合住宅・管理組合、指定避難所と連絡を取り合い、被害状況や避難者の情報を収集・整理する。		
収集・整理した情報を区役所、消防署、警察署等に連絡する。		
各自治会・集合住宅・管理組合の災害対応		確認欄
ふれまち役員や各自治会・集合住宅・管理組合の役員、防災活動が可能な住民は、予め決めておいた公園や集会所などに集まる。		
地図や役員・居住者の名簿等を準備する。		
役員が中心となり、必要に応じて以下のような災害対応活動を行う。		
情報収集・伝達		確認欄
地区内の被害状況や安否確認情報を収集・整理する。		
収集・整理した情報を防コミ運営本部へ伝達する。電話が通じないといった状況によっては、情報をやり取りするための伝令を派遣する。		
安否確認・避難支援		確認欄
民生委員等と協力し、安否不明者の確認を行う。特に安否確認が必要な人の名簿等を事前に用意している場合は、それらを活用する。		
自力での避難が困難な人（災害時要援護者や障がい者、お年寄り、妊婦、負傷者等）の避難支援を行う。		
救出・救護・初期消火		確認欄
二次災害に注意しながら、防災資機材等を活用し、被災者を救出する。		
被災者が負傷している場合は、止血等の応急手当を実施し、指定避難所、医療機関へ搬送する。		
地区内の出火場所を確認し、消火器や小型動力ポンプ等、あらゆる消火器具を活用して初期消火を行う。		
避難所の立ち上げ		確認欄
学校関係者や区役所職員と協力して避難所を開設する。		
避難者調査票等を活用し、避難者名簿を作成する。 ※P.13～14を参照		

**【災害発生から数時間～3日（72時間）くらい】**

<b>防コミ運営本部の運営</b>		確認欄
ふれまち役員や各自治会・集合住宅・管理組合、指定避難所等との連絡を通じ、地域内の被害状況等を収集・整理する。		
収集・整理した情報を区役所、消防署、警察署等に連絡し、支援の要請を行う。		
ある程度落ち着いた段階で、ふれまち役員や各自治会・集合住宅・管理組合から防コミ運営本部を運営するためのスタッフを増員する。		
各地区で必要な災害対応活動の人員が不足している場合は、可能であれば防コミ運営本部で調整し、応援を派遣する。		
<b>避難所の運営</b>		確認欄
避難者調査票等を活用し、避難者のより詳細な情報を名簿にまとめる。 ※P.13～14を参照		
避難所に来た人々から、地域の被害状況や安否確認情報を収集・整理し、防コミ運営本部へ伝達する。		
各自治会・集合住宅・管理組合等で必要な災害対応活動に関して、避難所に来た人々から協力者を募る。		
<b>災害時給水拠点の設置・運営</b>		確認欄
ふれあいのまちづくり協議会から人員を派遣し、災害時給水拠点の仮設給水栓を設営する。 ※P.20を参照		
利用ルールに基づき、災害時給水拠点の管理運営を行う。		
<b>生活情報の収集・周知</b>		確認欄
生活情報を収集し、地域住民へ周知する。		
<b>防火・防犯パトロール</b>		確認欄
パトロール班を結成し、二次災害に注意しながら、交代で地域内のパトロールを行う。		

## 避難世帯リスト

	世帯主氏名	住所（垂水区以降の住所）	男性（人数）	女性（人数）	合計（人数）	到着時間	帰宅時間
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							

※垂水区以外の避難者は都道府県名から住所を記入すること

※避難者が20世帯を超える場合は2枚目以降に記入すること

# 避難者調査票

※太枠部分は必ずご記入下さい。

避難所名 ( )

<b>①記入時点</b>	年 月 日 時 分	<b>②入所日</b>	年 月 日	
<b>③代表者氏名</b>		<b>④親族などの連絡先</b>	氏名	
<b>④住所</b>	〒 -		住所	〒 -
			連絡先	( ) -
<b>⑤電話番号</b>	( ) -	<b>⑨自宅の被害状況</b>	<input type="checkbox"/> 全壊 <input type="checkbox"/> 大規模半壊 <input type="checkbox"/> 半壊 <input type="checkbox"/> 一部損壊 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
<b>⑥電話番号(携帯)</b>	( ) -		<b>⑩避難場所</b>	<input type="checkbox"/> 建物内 <input type="checkbox"/> 車中泊(避難場所敷地内) <input type="checkbox"/> 持参テント(避難所敷地内) <input type="checkbox"/> その他 ( )
<b>⑦車種・ナンバー</b>		<input type="checkbox"/> ライフライン不通(電気・ガス・水道・電話) <input type="checkbox"/> 余震が不安 <input type="checkbox"/> 自宅の片づけができない <input type="checkbox"/> 必要な物資が手に入らない <input type="checkbox"/> その他 ( )		
<b>⑫家族構成など</b>		<b>⑬以下に該当するものがある場合は項目を⑭で囲って下さい</b>	<b>⑭備考欄(病気や食物アレルギーなど)</b>	
<b>代表者</b>	フリガナ 氏名	年齢 続柄		
	年 月 日生 歳			
<b>ご家族様等</b>	フリガナ 氏名	年齢 続柄		
	年 月 日生 歳			
<b>ご家族様等</b>	フリガナ 氏名	年齢 続柄		
	年 月 日生 歳			
<b>ご家族様等</b>	フリガナ 氏名	年齢 続柄		
	年 月 日生 歳			
<b>聞き取りメモ(職員記入欄)</b>		<b>記入者名 ( )</b>		

# 情報収集・伝達

1. ラジオ、テレビ、防災行政無線等で地震情報等の収集を行う。
2. 地域内の災害情報を把握する。

## 情報収集・伝達手順

### 1. 情報収集

収集した情報はホワイトボード等に時系列で記載する。

#### ①ラジオ等での情報収集

通信手段が確保されている場合は、ラジオ、テレビ、防災行政無線のほか、電話等も活用する。

#### ②行政からの情報収集

各種機関へ直接連絡を取り、必要な情報を収集する。また、定期的に区役所等に出向くなどして、公開されている情報を収集する。

#### ③各自治会からの情報収集

地区内の被害状況や避難状況等の情報を収集する。

### 2. 情報伝達

情報を伝える手段として、ハンドマイク、広報掲示板、回覧板も効果的に活用する。



# 安否確認

民生・児童委員等と協力し、安否不明者の確認を行う。

## 訪問先での確認手段

### 1. 外観の確認

建物に甚大な被害がないかを確認する。

### 2. 声かけ・呼びかけ確認

門の外側で大きな声で呼びかけ、安否を確認する。

### 3. ドアをノックする

応答がないときは、呼びかけと一緒にドアをノックする。

### 4. 庭、勝手口等の確認

状況が把握できないときは、庭、勝手口などを確認する。

# 自力での避難が困難な人の 避難支援

1. 自身の安全を確保した上で、二次災害に気をつけながら可能な限りで、避難する必要がある人の支援を行う。
2. 集会所や避難所に集まった人々から協力者を募り、支援者の割り振りを行う。

## 避難支援のポイント

### 1. 一人暮らし高齢者

迅速な情報伝達と避難誘導、安否確認および状況把握が必要。

### 2. 寝たきりの要介護高齢者

避難時は車いす、担架、ストレッチャー等の補助器具が必要なことがある。

### 3. 認知症の人

安否確認、状況把握、避難誘導の援助が必要。

### 4. 視覚障がい者

音声による情報伝達や状況説明、避難誘導等の援助が必要。

### 5. 聴覚障がい者

補聴器の使用や、手話、文字、絵図等を活用した情報伝達および状況説明が必要。

### 6. 言語障がい者

手話、筆談等によって状況を把握することが必要。

### 7. 在宅人工呼吸器使用者

避難所での電源確保が必要。

# 救出・救護活動

1. 防災資機材（ジャッキ、のこぎり、ボール等）を活用し、協力して救出活動を行う。
2. 救護（応急手当）を実施する。
3. 集会所や避難所に集まった人々から協力者を募り、救出・救護活動人員の割り振りを行う。

## 救出・救護手順

### 1. 被害の実態把握

- ①倒壊建物に取り残されている人がどのような状態か（けがの程度も含めて）確認する。
- ②建物の倒壊状況および内部に進入するスペースがあるかを確認する。
- ③二次災害が発生する危険要因がないか確認する。

### 2. 二次災害の防止

- ①木片、トタン、ガラス等の軽量物を除去する。
- ②柱、梁等の大きな物の周辺物を除去するときは、これらの大きな物がずれたり倒壊しないようにロープ等で支持、固定する。
- ③火災の発生に備え、消火器や水バケツを用意する。ガスの元栓や電気のブレーカーは早期に閉止や遮断を行う。

### 3. 要救助者の救出

- ①要救助者の近くまで掘り進んだ後は資機材を使わずに手作業にする。
- ②要救助者を無理に引き出そうとしない。

### 4. 応急手当

出血しているときは清潔なガーゼ等で傷口を圧迫止血する。

# 消火活動

出火場所を確認し、人員を割り振って消火活動を行う。

## 消火活動手順

### 1. 消火用水の選定

- ①火元に近い消火用水を選定し、強風時には風上側を使うなど風向きに注意する。
- ②河川使用時はストレーナーを水の流れに向けて投入し、浮かばないようにする。
- ③ポンプから水面までの高低差は7m以内を目安とする。

### 2. ホースの延長要領

- ①道路、建物の曲がり角では大きく曲げて、折れやねじれ、引きずりを避ける。
- ②ホースの結合は漏水しないように確実に行う。

### 3. 送水の時期

- ①ホースの延長状況や筒先担当の「放水始め」の合図があってから送水する。
- ②放水口コックを開けるときはノズルの反動力を考え徐々に行う。

## 小型動力ポンプの使い方

- ①燃料コックを開く。
- ②スロットルダイヤルを「給水・始動」の位置に合わせる。
- ③リコイルスターターハンドルを強く引張り、エンジンを始動させる。
- ④給水レバーを引き上げ、水を吸い上げる。
- ⑤放水口コックをゆっくり開きながら全開にし、放水を行う。



# 災害時給水拠点設置・運営

1. 研修を受けた人が中心となり、災害時給水拠点の仮設給水栓を設営する。
2. 利用ルールに基づき、災害時給水拠点を管理運営する。

## 災害時給水拠点仮設給水栓設置手順

①西垂水第2高層配水池内、災害時給水拠点の鍵を開ける。



④仮設給水栓（4セット）を現地の組立手順書及び説明書を参照して組み立てる。



②応急給水資材保管庫から手動ポンプ、サクシオンホース、分岐栓、消防用接続ホース、仮設給水栓収納袋を取り出す。



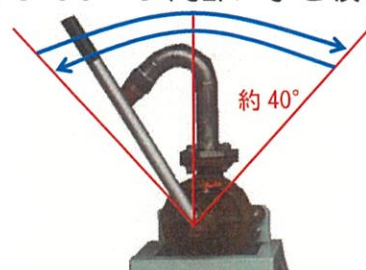
⑤手動ポンプに分岐栓を取り付け、各栓に消防用接続ホースで仮設給水栓を2セットずつ連結する。



③緊急用取水口にサクシオンホースで手動ポンプを接続する。



⑥手動ポンプのハンドルを垂直に対して約40度の角度で左右に揺動する。空気を吸い込んでいる間はできるだけ早く操作してポンプ内部に水を吸い上げる。



# 多聞東ふれあいのまちづくり協議会 地域おたすけガイドマップ

■ 垂水消防署

**学が丘4丁目**  
 \* 自治会がある  
 ・ 360/450  
 ・ 8ブロック×2名幹事  
 16名の役員

**本部：多聞東小学校（会議室）**  
 \* 鍵を持っている人が地域に数名居る  
 \* 学校開放でプール横の門、体育館の鍵  
 →これから防コミでも申請  
 \* 施設等何があるかよくわかってる  
 \* 子どもにも「とりあえず小学校へ!」と  
 指導している→知っている人がいる  
 \* 昼間に地震が起こった時（子どもがいる）  
 \* 学校の方針の確認  
 \* 敷地内に断層が走っている…?

**多聞東地域福祉センター  
 （福祉避難所）**

坂の下にあるため、ここまで  
 降りてくるイメージはない

看護師の協力要請  
 介護付有料老人ホーム  
 ディアージュ神戸

交流がない

開発によりこれから子育て  
 世代が増えてくる…?



本多聞小学校



多聞東小学校

**UR新多聞団地**  
 \* 共用部に消火器等なし  
 \* 隣の人のことも知らない（表札なし）  
 \* エラウンジ（集会所）は管理事務所に  
 鍵を借りに行かないと開けられない  
 \* 5丁目の東側はもう住民がいない  
 \* 台風時は家にいる方が安心  
 \* 防コミに参加している人は情報が得られる

\* 交通量が多い  
 \* 信号が少なく、スピード速い  
 \* 駐車が多い  
 \* 道に高低差がある  
 →杖や車いすの人が大変  
 \* 強風時、市道の立木、電線が心配

**新多聞住宅**  
 \* 集会所、4号棟、5号棟の  
 立木が強風時は危ない  
 \* 4号棟前の石積み  
 が以前の地震でズレていた

台風（強風）時は  
 街路樹の倒木が心配

雨天時に水が集まる

雨天時は歩けなくなるほど  
 道に水で溢れる

近い人は多聞東中学校や  
 舞子高校にも避難する

**ドルミハイツ**  
 \* 棟ごとに管理組合  
 \* A棟前の立木が強風時危ない

\* 強風時の立木、電線が心配  
 \* 街路灯が少なく、暗い

**災害時給水拠点**  
 \* 半径2km圏内を想定  
 \* 1週間ぐらい  
 \* 16の蛇口  
 \* 組み立てを訓練  
 \* ルール作りが必要  
 ・ 当番  
 ・ 時間  
 ・ 1世帯当たりの量

凡例			
	避難所		防災資機材庫
	多聞東エリア		防災行政無線（スピーカー型）
	集合住宅エリア		防災行政無線（ラジオ型）
	急傾斜地の崩壊 （がけくずれ）の警戒区域		AED
	掲示板		防火水槽
	病院		消火栓
	歯科医院		プール
	応急給水拠点		公衆電話

ブロック塀点検

食料品店が近くに無い

